

県立新潟女短大 山崎 光子

1. 正倉院の染色模様裂は縹縹, 縹縹, 縹縹の三縹で, 縹縹は絞り染であるとされている。しかし, 現存の正倉院の縹縹と呼ばれている目絞り状の染裂を絞り染とすることには疑問点が多いので, 文献や再現実験などから検討を試みた。その結果, それらの染裂について, (1)縹縹という名称をつけることは妥当でない。(2)その染色技法は絞り染とは考え難い, との否定的結論に達したので報告する。

2. 正倉院文書を中心に資財帳, 令, 式, その他関係諸文献, 並びに博物館展示品, 染織裂の写真図版等を資料とし, 染色手芸修得学生30名による再現実験結果を加え検討した。

3. (1)正倉院に現存する遺品の目録とみられる東大寺献物帳に, 縹, 縹縹の名称は多く記載されているが縹縹はなく, それに該当するものは「目交」と呼ばれている。又当時代の他の文献にも縹縹の記録はない。更に, 縹縹工, 夾縹手, 縹縹手についても記されているが縹縹の染工の名はみられない。

(2) 現在の絞り染の手法で縹縹といわれている模様を染めることは, 実験の結果, 技術的に不可能に近い。

縹縹といわれている染裂が, ほとんど単色染で, 又, 縁布や裏布に使用するなど補足的役割に回されがちだという事は, 技法的にも簡便であろうと推察され, 上記(1), (2)と考え合わせても, 縹, 縹縹と並び得る独立した染色技術による染裂とは考えられない。